御里窯跡出土品（おさとがまあとしゅつどひん）

【所　在　地】　鹿児島県姶良市加治木町反土１０１０－２　吉原事務所文化財室
【種　　別】　県指定有形文化財（考古資料）
【指定年月日】　平成２２年４月２３日

御里窯跡の茶入（ちゃいれ）

御里窯跡は，姶良市加治木町仮屋町314外１筆に所在する，朝鮮の技術によって造られた17世紀前半頃の窯跡である。出土品の主な器種は茶道具の茶入であり，島津義弘は中央の茶会で人気のあった「薩摩の茶入」を献上品や贈答品としていたものと考えられる。このことが薩摩で茶道が広まる契機となったとも解釈できる。出土品のうち，御里窯の特徴を示す43点は，歴史的にも重要かつ貴重である。